



# 就任ご挨拶

沖縄及び北方対策担当大臣

## 細田 博之

この度沖縄及び北方対策担当大臣を拝命した細田博之でございます。私は通商産業省に勤務していた時代から沖縄との関わりがありましたが、特に父の細田吉蔵が佐藤内閣総理大臣の下で総理府総務副長官を務めた際、沖縄復帰に向けて活動をしていったというのを先日父から詳しく聞き、親子二代にわたって総理の膝元で沖縄に関わる仕事をさせていただくご縁ができたことを大変嬉しく思っております。

沖縄は本年復帰三十周年という節目の時期であるとともに、二十一世紀における新たな発展に向けて自立型経済を構築し飛躍しようとする重要な時期を迎えております。この時期に沖縄及び北方対策担当大臣の職に就任したということとは、大変光栄であるとともに、その責任の重さに身の引き締まる思いがしております。

沖縄が本土に復帰して以来、政府は三次にわたる振興開発計画を策定し、これに基づき総額約七兆円の国費を投入し各般の施策を積極的に講じてまいりました。その結果、県民の皆様のたゆまざる御努力と相まって、社会資本の整備は大きく前進し、沖縄の経済社会は総体として着実に発展してきたところであります。

しかしながら、沖縄は、今なお広大な米軍施設・区域が存在するとともに、交通の円滑化、水の確保、街づくり、環境衛生など様々な分野で整備を要するものがみられ、さらに産業振興や雇用創出の問題など今なお解決しなければならぬ多くの課題を抱えております。こうした沖縄の抱える諸問題の解決は、申すまでもなく現内閣においても引き続き重要課題であります。

私といたしましては、本年三月に成立した二十一世紀の沖縄の新たな発展を目指す制度的なインフラとも寺口うべき沖縄振興特別措置法と、これに基づく新たな沖縄振興計画や分野別の諸計画をいかにして、自立型経済の構築等に向けて、観光・リゾート産業や情報通信関連産業をはじめとする産業の振興、科学技術の振興、人材の育成など、沖縄の新たな振興・発展に沖縄県や市町村と一体となつて積極的に取り組んでまいりたいと考えております。特に、尾身前大臣が提唱された沖縄新大学院大学構想については、アジア太平洋地域の先端的知的クラスターとして沖縄が発展していく上で大変重要なプロジェクトであると考えており、私としても尾身前大臣の取組を引き継いでその実現に向けて全

力で取り組んでまいる所存であります。

また、沖縄における米軍施設・区域の存在が、我が国のみならずアジア・太平洋地域の平和と安定に貢献している一方で、沖縄県民の皆様には大きな御負担をおかけしているということは私も十分認識しております。県民の皆様の御負担を軽減すべく、SACO最終報告を踏まえ、米軍施設・区域の整理・統合・縮小に引き続き全力で取り組んでまいります。特に、普大間飛行場の移設・返還につきましましては、普大間飛行場の移設に係る政府方針及び「普大間飛行場代替施設の基本計画」に基づき、沖縄県及び地元地方公共団体と引き続き十分な協議を行いつつ、その着実な推進に全力で取り組んでまいる所存であります。

最後に、私は、沖縄及び北方対策担当大臣として、県民の皆様への思いを一步一步実現していくことが自らの責務であると考えており、沖縄のためにご尽力された歴代の沖縄開発庁長官、沖縄及び北方対策担当大臣等多くの方々の情熱、熱意をしっかりと引き継ぎ、沖縄の新たな発展に向けて精一杯努力してまいりたい決意であることを申し上げて、私の挨拶といたします。